

CASBEE神戸ver.3

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE神戸ver.3/CASBEE 建築（新築）2016年版 使用評価ソフト：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-SD_NC_2016(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)サニーピア「サービス付き高齢者住宅」増築	階数	地上6F
建設地	神戸市中央区波止場町47-3他	構造	RC造
用途地域	準工業、準防火地域	平均居住人員	60人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	物販店、病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年6月 予定	評価の実施日	2025年1月15日
敷地面積	5,582 m ²	作成者	株式会社かたて
建築面積	907 m ²	確認日	
延床面積	3,222 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 81%
 ③上記+②以外の 81%
 ④上記+ 81%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 CASBEE神戸 の重要項目

バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 3.0	Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 2.2 Q-2/2.4 信頼性 3.0	Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 2.0
配慮の概要	配慮の概要	配慮の概要
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
(仮称)サニーピア「サービス付き高齢者住宅」増築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境							0.40		-	3.2
1 音環境						3.3	0.15	2.8	1.00	3.1
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音						3.7	0.40	3.6	0.40	
1 開口部遮音性能		T-2				4.8	0.44	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	0.56	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						3.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境						2.8	0.35	3.0	1.00	2.9
2.1 室温制御						3.4	0.50	3.8	0.50	
1 室温						3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能		レベル按分計算書による				4.9	0.24	5.0	0.43	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.37	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境						3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
3.1 昼光利用						4.1	0.31	4.2	0.30	
1 昼光率		共用部3.65% 住居部1.36%				5.0	0.56	5.0	0.60	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.44	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						4.0	0.28	4.0	0.30	
1 昼光制御		共用部・住居部共にカーテン+庇				4.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.14	3.0	0.15	
3.4 照明制御						3.0	0.27	3.0	0.25	
4 空気質環境						3.5	0.25	3.5	1.00	3.5
4.1 発生源対策						4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						2.0	0.30	2.6	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		有効開口面積1/15以上				-	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理						4.8	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						1.0	0.03	-	-	
2 喫煙の制御		敷地内はすべて禁煙				5.0	0.97	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.1
1 機能性						2.9	0.40	4.4	1.00	3.4
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		個室10㎡/床以上、多床室8㎡/床以上				-	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応						-	-	-	-	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						2.9	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観		住居部の天井高2.5m				1.0	0.02	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						2.0	0.02	-	-	
3 内装計画						3.0	0.96	3.0	0.50	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.6	0.30	-	-	2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振						2.2	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						2.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.3	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		ビニル床シート20年、ビニルクロス20年				4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		2種類以上にC以上を採用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.1	0.30	3.2	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり			3.0	0.30	3.4	0.50	
1	階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	住居部の壁長さ比率 0.1 ≤ 0.195 ≤ 0.3	3.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性	主要な電気配線はEPS内に配線している	5.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性	主要な通信配線はEPS内に配線している	5.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40		-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.7
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.71	5.0	0.20		-	5.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10		-	3.0
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEI _m] = 0.77	3.6	0.50		-	3.6
4	効率的運用		3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1	モニタリング			-		-	
4.2	運用管理体制			-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1	節水	節水器具便器、自動水栓	4.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60		-	3.4
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.11		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	マジエスタ(グリーン調達品目)	3.0	0.22		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と内装材(LGS工法)により容易に分別可能	5.0	0.22		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30		-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.2
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率81%	3.7	0.33		-	3.7
2 地域環境への配慮			2.9	0.33		-	2.9
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25		-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50		-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	0.50		-	
2	振動		3.0	0.50		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制			-		-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	